

物流博物館 NEWS VOL. 3

「収蔵資料展」特集号

2001年5月15日発行

すっかり、初夏の陽気となりました。みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

物流博物館では4月28日から、「収蔵資料展 京都馬借／鉄道錦絵コレクション」を開催しています。この収蔵資料展では、ふだんまとめて展示する機会があまりない当館所蔵の2つのコレクションを大公開！そこで今回の特集号では、この展示会の見どころをわかりやすくご紹介したいと思います。

初夏の1日、ぜひ物流博物館に足を運んでみてください。きっと、思いもかけない発見があるはずです。

特集

収蔵資料展 京都馬借／ 鉄道錦絵コレクション

開催期間 4月28日～6月3日

今回の展示では、「京都馬借」と「鉄道錦絵」という2つのコレクションを、会場を2つに分けて展示します。

一見何の関係もないように見える2つの展示ですが、両者を見ていただくことで、近世から近代へと陸上輸送しくみがどのように変貌していったのか、具体的な資料を通して感じ取っていただくことができると思います。

1. 京都馬借

・京都馬借ってなんだ？

展示の第1会場（1階）では、「京都馬借」について紹介しています。「馬借（ばしゃく）」という言葉、聞いたことがあるでしょうか？学校の歴史の時間に習ったよ、という人も結構多いかもしれません。馬借というのは、近畿地方で馬の背に荷物を積んで物資輸送を行った運送業者のことで、一般には中世の馬借が有名です。

中世の馬借は水運で運ばれてきた物資を内陸の京都・奈良へ運ぶことなどを仕事とし、室町時代には自分たちの利益を守るためにしばしば馬借一揆を起こしています。しかし、江戸時代にも馬借を名乗る人々が各地に存在し、



京都馬借風俗再現写真(山城屋)

運送の仕事に従事していたことはあまり知られていないようです。

今回の展示では、京都で馬借を営んでおられた2軒のお宅から寄贈していただいた資料を中心に、江戸時代の京都の馬借について紹介しています。

2. 豪華な馬飾り

下の写真をごらんください。カラーでお見せできないのが残念ですが、赤いフェルト地の布に金糸で虎や滝を登る鯉、家印などの豪華なししゅうが施されています。

これは、京都馬借だった菊岡家に伝わっていた馬飾りで、同家は江戸時代には山城屋清左衛門を名乗っていました。こうした豪華な馬飾りは、正月の初荷や婚礼荷物の運搬などの際に用いられたということです。このページ右上の写真は、山城屋の馬飾りを実際に馬に装着して往時の風俗を再現してみた時の写真と思われる。



豪華なししゅうの馬飾り



馬飾りの虎のししゅう（部分）

前ページ上の写真では、「明荷（あけに）」と呼ばれる運搬具を馬の両側につけ、そこに女性が乗っています。

このような方法は江戸時代の浮世絵や版本の挿絵に散見されますが、「明荷」のような運搬具は今日あまり残存してはいないようです。当館ではこの写真に登場するものと同じ「明荷」を所蔵しており、今回の展示にも出品します。

江戸時代の馬借は、今回紹介する京都をはじめ伏見、大津、池田などに存在し、馬による輸送専門家として活動していました。かれらは幕府の公用輸送に使用する人馬を提供したほか、公家・大名屋敷からの荷物、町飛脚や商人荷物の運搬などを行っていました。

展示では、そうした馬借たちが明治時代という新しい時代を迎えた後も、輸送業者として活動の場を広げて行ったようすをあわせて展示しています。



馬借の鈴 江戸時代



馬借の書状箱 江戸時代



かつての馬借・鳥居長左衛門の引札 明治時代

2. 鉄道錦絵コレクション

第2会場（2階）では、鉄道錦絵の展示を行います。当館には、60数点の鉄道錦絵が収蔵されています。鉄道錦絵というのは、明治の初期に描かれた鉄道をテーマにした浮世絵版画のことです。

日本で初めての鉄道が新橋（汐留）・横浜（桜木町）間に開通したのは、明治5年（1872）のことです。それまでの輸送方法とは全く異なる鉄道の登場は大きな話題となり、開業前からさまざまな浮世絵が制作されました。

これらの作品には、新奇な目で見られていた開業前後の鉄道が登場するのはもちろんですが、画面の中には同時代の陸上輸送や海上・河川輸送のようすが描きこまれ、細かく見て行くと大変興味深い内容となっています。

展示では、こうした作品の中から、館の地元の高輪や品川近辺を描いた作品を中心に約30点の鉄道錦絵を選び、新しい時代へと変貌を遂げて行った当時のさまざまな輸送事情を紹介しています。

高輪付近を走る蒸気機関車

明治6年（1873）の3代歌川広重の作品です。蒸気機関車の背後の東海道には馬車や人力車が行き交い、画面右端には江戸の入り口に当たる高輪大木戸も見えます。よく見ると牛が車を曳いているようすが描かれているのがわかります。高輪には牛車で江戸市中の運送に従事している人々が集住した場所があり、「高輪牛町」と呼ばれていました。



3. 展示について来館者に聞いてみました

・来館者の傾向

物流博物館では、今回のような企画展示は年に1回だけ開催しています。通常の常設展示の観覧者は子どもたちをはじめ物流に関心のある学生さん、物流関係の企業にお勤めの方々などが中心ですが、時期を限ったこのような企画展示では、通常の来館者とは違ったタイプの方々も多くなりました。

とくに、今回の展示では、従来の当館の入館者には少なかった近隣からの比較的高齢のお客様が多く見受けられるように感じています。これまでのアンケートの結果をみますと、港区・品川区・大田区などの近隣の区のほか、新聞や雑誌で取り上げていただいたこともあり、千葉、神奈川、埼玉などからのお客様も多くなりました。

中には、トラック関係の雑誌で見たとのことで、三重県のトラック運送会社のみなさんが、社員旅行の途中に立ち寄ってくださったこともありました。連休の後半には天気も回復したので、高輪近辺を散策される方が立ち寄られたりもしていました。



「京都馬借」の展示会場

・展示解説の印象

展示が始まってまだ間もないゴールデンウィーク中にはさまざまなお客様がたくさん来館され、館内も明るくにぎやかな雰囲気となりました。そこで、今回の展示ではお客様になるべく声をおかけして、ご希望があれば展示の解説をさせていただくように心がけてみました。

実際、「馬借」といってもなかなかなじみのあるものではなく、馬飾りといっても、どのように馬に装着したのかなかなかわかりにくいものです。また、今回の展示では古文書も展示していますが、読み方を書いた解説を資料のそばに置いておいても、それを読むのはなかなか骨の折れることだと思います。鉄道錦絵にしても、画面に描かれた細かな内容をすべて解説文に書くことはむずかしいので、話し言葉で解説することによって、さっと見ただけでは比べ物にならないいろいろな情報をお伝えすることができます。

そう言う意味で、解説をさせていただいた方は皆さん一様に、展示がよく理解できたと喜んでくださいました。展示内容ではやはり「馬借」の馬飾りの見事さに多くの方が驚いておられましたが、古文書の展示にも興味を示して下さる方が意外に多



「鉄道錦絵コレクション」の展示会場

いことにも気づきました。鉄道錦絵は細かく見ていくといろいろな発見があるという印象を持った方が多かったようです。

展示解説をさせていただいていると、こちらも来館者の方々からいろいろなことを教えていただくことがあります。港区内にお住まいのある女性の方は、京都馬借の馬飾りをご覧になっている内に、ご自分の小さい頃のことを思い出されたようで、面白いお話をしてくださいました。大正12年生まれの方が小学生の頃、芝の増上寺の山門の脇には馬の水飲み場があって、いつも荷を積んだ馬車が止まって馬や馬士が休んでいたのだそうです。そこには屋台店が出ていて塩大福を売っていたそうですが、子ども心にそれが美味しそうでもたまらなかったということです。こうしたお話をうかがうことができるのも、展示解説をする楽しみのひとつです。

物流博物館の近辺は、泉岳寺、品川宿、国立自然教育園などのある白金方面など、初夏の散策に好適なスポットがたくさんあります。館には周辺の散策案内なども用意していますので、ぜひ収蔵資料展の開催中にご来館ください。

収蔵資料展の解説パンフレット



展示解説パンフレット

収蔵資料展「京都馬借／鉄道錦絵コレクション」の開催にともない、同展の展示解説パンフレットを作成しました。A4版10ページの簡単なものですが、展示の内容をわかりやすくコンパクトにまとめています。

物流博物館の窓口で1冊200円で販売していますので、ぜひ一度手にとって見てみてください。

新しい「見学の手引き」が完成



「社会科見学の手引き」

当館では、毎年小学生の団体見学のための案内パンフレットを作成していますが、先ごろ、2001年度版の新しい「社会科見学の手引き」ができあがりました。

このパンフレットは、運輸について社会科で学習する小学5年生が当館を団体で利用する際の見学の進め方について解説したもので、5年生を担当される先生方にお配りしているものです。

この「手引き」には、見学の際に使っていただくワークシートも掲載しているのですが、作成したときはこれでよいと思っても、いざ使ってみると展示の説明の流れに合わなかったり内容が子どもたちに伝わりにくかったりと、毎年使い勝手がよくない点がでてくるため、必ず改訂版を作ることになっています。

今回の改訂版は、これまで以上に写真や図版を増やし文字も大きくするなど、記入のしやすさ、わかりやすさに重点を置いて作って見ました。ワークシートは限られた時間内で展示をよりよく理解する上ではとても役立つものですが、反面、シートへの記入に気をとられて肝心の展示を観察しないなどの弊害も生じます。今回のシートでは、そうした子どもたちへの記入の負担をなるべく軽減するようにしたつもりです。

最近では、通り一遍の見学ではなく、子どもたちが主体性を持って取り組み、成果を発表するような見学も増えています。当館に小学生の見学が集中するのは2学期以降ですが、今年ほどどんな見学ができるかなあと楽しみにしています。

なお、「社会科見学の手引き」の入手をご希望の方は、物流博物館までお問い合わせください。

平成12年度は入館者が増加

物流博物館も昨年度は開館3年目を迎え、活動内容の幅も広がり、運営もようやく軌道に乗ってきたという感があります。

昨年度の入館者数は約9,000名で、一昨年度に比べ約20%の増加を見ることが出来ました。とくに、小学校の団体見学は54校・2976人と前年度(25校・1588人)に比べ倍増しており、開館初年度以来、毎年倍増する形で推移しています。小学生を含めた学校関係の見学全体では84校・約3,600人の利用がありました。

小学生の団体見学がこのように伸びた理由としては、見学

案内のパンフレットや、本紙の小学校団体見学特集号を各学校にお送りするなどした結果、当初はゼロに近かった当館の知名度が少しずつ出来てきたことが考えられます。よりよい見学ができるよう、今後もさまざまな工夫を重ねていきたいと考えています。



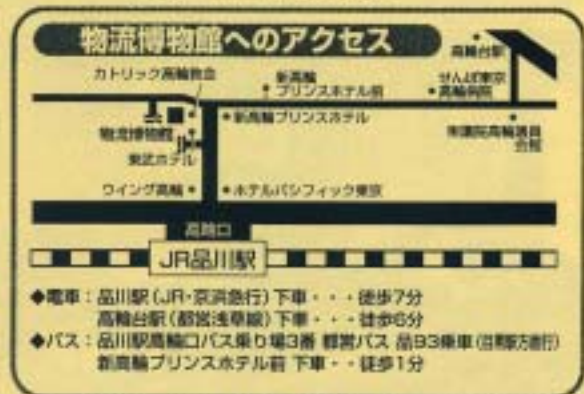
見学の光景

物流博物館のご案内

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15

TEL 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385

<http://www.lmuse.or.jp>



開館時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週月曜日

(但し月曜日が祝日・振替休日の場合は、その翌日)

毎月第4火曜日、祝日の翌日(但し土日を除く)

年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 小中学生:100円 高校生以上200円

(団体20名以上半額)

※学校関係の団体は入館料が免除になります。

編集後記

■物流博物館NEWS第3号をお届けします。当館の場合、例年10月頃から3月までは小学校の社会科見学シーズンとなるため、週によっては連日のように見学がありますが、反面、一般のお客様を対象とした催しや展示はこの期間にはほとんど行っていないのが現状です。4月の末から始まった収蔵資料展は、そう言う意味では久しぶりに一般の方々を対象にした催し物ということができると思います。これから6月、7月、8月と、映画会、講演会、各種体験講座など、さまざまな催しを予定しておりますので、どうぞご期待ください。(T)